

# 拡散接合ノウハウ高度化

## 富士電波 滋賀工場に実験設備

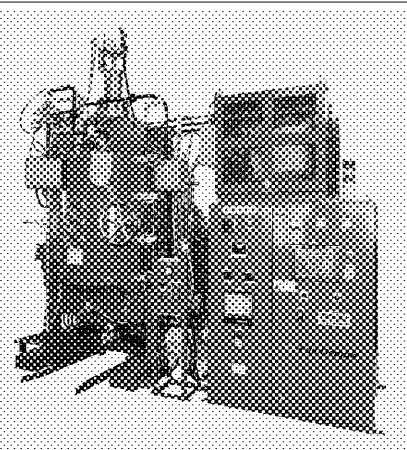
富士電波工業（大阪市淀川区、横島俊夫社長）は、滋賀県湖南市の工場内に、金属などの接合方法「拡散接合」用途のホットプレス装置を実験用に新設した。特定の条件下で試料を加熱・加圧できる体制を整えた。受託実験やより良い接合方法を模索するためのノウハウ蓄積、装置開発における改良に使う。新素材の開発などでホットプレス装置の引き合いが増えており、同社は2024年8月期以降、毎年5、6台の販売を目指す。

従来は不要になった「加工法。銅やステンレ

装置を客先から引き取り、実験用途に再利用していた。拡散接合は母材を溶融させずに加熱・加圧し、原子を拡散させて直接接合する

加工法。銅やステンレスなどの金属材料に用いられることが多く、小型電子部品のヒートシンク向けの需要が高まっている。

富士電波工業は、パワ



富士電波工業の拡散接合用ホットプレス

半導体向けのシリコンカーバイドや車載・産業用モーターの磁性材料の熱処理、半導体向けファインセラミックスの焼結などに必要な電気炉を製造する。2000度C以上の高温で加熱できる装置を手がける数少ないメーカーの一つで素材、部品メーカーと取引実績がある。23年8月期の売上高は前期比2・3%減の41億1800万円だった。